

## 若手育成・男女共同参画合同ワークショップ「博士号の取得とキャリアについて考える」

日 時：6月28日（木）11:45～13:45 E会場（朱鷺メッセ2階 中会議室201）

世話人：日本蛋白質科学会男女共同参画ワーキンググループ

趣 旨：博士課程入学者が減り続けていると言われる昨今ですが、1万人以上が今でも毎年博士課程に進学しています。その結果輩出される若手研究者は大きな戦力となり、科学技術の発展を支えています。一方、アカデミアに残る者は、そのうちのごくわずかです。それ以外の道で生きるための受け皿が十分でないことも周知の事実です。当然、男女問わず、殆どの人がキャリアパス問題に直面します。女性研究者の育成においても、キャリアパスは大きな課題となっています。そこで、昨年度に続き、蛋白質科学会若手育成及び男女参画活動共催でキャリアセミナーを開催することにしました。

本セミナーは、話題提供とパネルディスカッションの二部構成となっています。前半部では博士課程に進学したのち、アカデミアではない進路を進んだ方々のキャリアパスの例や考え方を講演していただきます。パネルディスカッションでは、前半部の話題をもとに、博士となることの意味を考え、蛋白質科学に携わる人々が将来を考える一助となる議論を展開したいと思っています。皆様の積極的な参加を期待しております。また、パネリストへ立候補される方も歓迎いたします。

### ■話題提供

「フロンティアを開拓し続ける」

宇佐美 篤（株式会社東京大学エッジキャピタル (UTEK) パートナー）

博士号取得後、シンクタンクで事業戦略立案業務に従事。UTEKではベンチャーキャピタリストとして技術系ベンチャーへの投資、経営支援を行う。現在5社の社外取締役等を兼務。起業家、発明者らとのフロンティア開拓の取り組みを通じたキャリア観についてお話しします。

「博士のノンリサーチキャリアパスとしてのファンディングエージェンシー」

矢口 邦雄（国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 創薬戦略部 医薬品研究課 主幹）

博士号取得後、ポスドク研究員、科学広報職を経て、ファンディングエージェンシーにて医療分野の研究費配分に関わる仕事に携わっています。研究者のノンリサーチキャリアへの転身や、ファンディングエージェンシーでの経験などについてお話ししたいと思います。

「科学の楽しさを共有したい」

白瀧 千夏子（自然科学研究機構 生命創成探究センター）

博士号取得後、東京工業大学でポスドクとして勤務後、蒲都市生命の海科学館の科学コミュニケーターに転身。2018年1月より自然科学研究機構に勤務し、現在、同機構・生命創成探究センターの研究連携コミュニケーターとして奮闘中。

「どこに行ってもサバイバル、博士の価値を考える」

三田村 圭祐（協和発酵キリン株式会社研究員）

博士課程単位取得退学後、現職。大学院時代に海外短期留学や生化学若手の会活動（夏の学校実行委員、実験医学コラムなど共同執筆）を経験。入社後は抗体医薬品の研究開発に従事。進路やキャリアに悩んだ学生時代を振り返りながら社会人として博士号取得を目指す意義についてご紹介します。

### ■パネルディスカッション

ファシリテーター：谷中 冴子（分子科学研究所）

パネリスト：宇佐美 篤（UTEK）、矢口 邦雄（AMED）、白瀧 千夏子（ExCELLS）、三田村 圭祐（協和発酵キリン）、その他

企画担当：日本蛋白質科学会男女共同参画ワーキンググループ 谷中 冴子（自然科学研究機構 分子科学研究所）